

5. 今月のトピックス 「イチゴのヒラズハナアザミウマについて」

1 イチゴで問題となるアザミウマ類

イチゴで問題となるアザミウマ類には、主に花や果実を加害するヒラズハナアザミウマとミカンキイロアザミウマ、主に新芽や若葉を加害するチャノキイロアザミウマがいます。今回は、これらの中からヒラズハナアザミウマについて紹介します。



写真 1. ヒラズハナアザミウマ雌成虫

2 ヒラズハナアザミウマとは

雌成虫は体長約 1.5mm で、体色は褐色です (写真 1)。雄成虫は雌に比べてひと回り小さく、体長約 1.1mm で、体色は黄色です。幼虫の体色は淡黄色ですが、餌植物などによっては橙色になる場合もあります。

成虫、幼虫とも花を好み、主に花粉や花弁を吸汁加害します。餌植物はイチゴを含むバラ科の他、ウリ科、ナス科、キク科、マメ科など非常に広範で、多くの雑草の花にも寄生します。

野外では春から秋に発生が多く、温暖な地域では年間 10 世代程度を経過します。雌 1 頭あたりの産卵数は約 500 個で、繁殖力が極めて高いアザミウマです。



写真 2. 花の褐変被害

3 イチゴでの被害について

イチゴでは主に花や幼果が加害されます。花が加害されると、全体が褐変して汚れた感じになります (写真 2)。

幼果では加害された部分が光沢を失い、表面が褐変します。加害初期は種子周りの凹んだ部分が褐変し (写真 3)、ひどくなると果面全体が褐変したり (写真 4)、加害部が硬化して肥大が阻害されたりします。ミカンキイロアザミウマでも同様の被害が生じますが、三重県ではヒラズハナアザミウマによる場合がほとんどです。



写真 3. 果実の初期被害

4 防除のポイント

施設イチゴで発生が増加するのは、気温が上昇する 3 月以降です。増殖力が高いので、「早期発見・早期防除」が重要です。多くの場合、施設の換気に伴って野外から侵入し、増殖すると考えられます。換気口や出入口付近を中心に、花をよく観察すると見つけることができます。特に、雌成虫は褐色なので、肉眼でも十分確認できます。花に息を吹きかけると、アザミウマが動いて見つけやすくなります。また、白い紙などの上で花をたたいて虫を落とすのも、ひとつの方法です。

防除薬剤は登録内容をよく確認して使用してください。また、天敵を導入している場合は、それらに対する影響に注意してください。

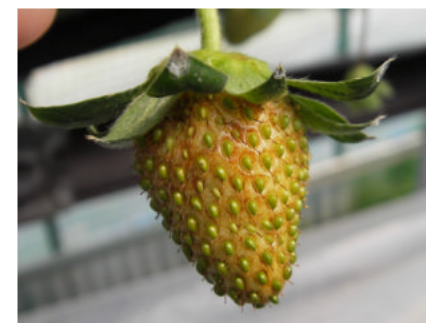


写真 4. 果実の激しい被害